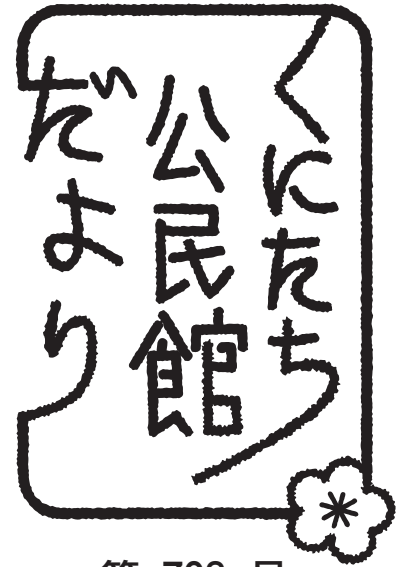


憲法を考える〈後半続き〉

—未来に向けていまを学ぶ—

「日本国憲法」をいま改めて見つめ考える憲法講座の後半続きがスタートします。今回は第5、6回の参加者に講座の感想を寄せていただきました。



第 708 号

2019年 2月 5日

(平成31年)

「くくにたち公民館だより」
ホームページの QR コード ▶



憲法講座に参加して

清水 佳子

「子どもと憲法」には、夫と2歳、1歳の息子2人を連れて、参加した。ともかく家事、育児以外のことを考える時間がほしかったというのが参加の動機である。子どもが騒いだら、交代で子どもを連れてホールの外へ出ることにすれば、最悪でも夫と半分ずつ聴ける、という心づもりであった。実際は、心配していた2歳児が講座開始時に眠りはじめ、最後まで、講座に参加することができた。

講師の、自分の研究テーマについて話していると楽しくて仕方がない、尽きることがない、というその様子が、毎日の生活で手一杯である身にとっては、すでに新鮮であった。この雰囲気を感じることができただけでも来てよかつたなあと思った。

たなあと考えた。

講座の内容は、子どもの権利条約(94年日本批准)の内容が主であった。「憲法」よりは上位に位置するが、「法律」よりは上位に位置づけられるものが「条約」であり、子どもの権利条約はそのひとつである。子どもの権利条約に反しない法律を日本は制定し、運用しなければならぬということのようだ。子どもの権利という、わがままな子どもが増えそうに思うが、



【第5回】「子どもと憲法」
講師：荒牧重人

発行
国立市公民館

〒186-0004
国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

そういうことではないと話された。お互いに他者の権利を尊重しあうことを子どもに伝える中で、あなたの(子どもの)権利も尊重されるよ、ということであった。子どもは「社会の宝」であるだけでなく「社会の一員」である。子どもも権利を主張できる主体であるということ。お世話してあげる、手助けしてあげる、というだけの存在なのではなく、独立した意思をもち、その意思は尊重すべきものであるということ。その視点を知らずして以降、ややうんざりしていた日常の折々に「これは子どもの権利を剥奪していないか？」と考えている。それが清涼感すら感じる一瞬となっている。

「主権なき平和国家」には、満を持して子どもは祖父母に預け、夫婦2人で出かけた。平和国家って日本のことかな、それにしても主権なきってどういうことなのだろう、と、前知識ゼロで臨んだ。

講座では、ハードな軍事の世界のお話が繰り広げられた。国際会議では、戦争後の統治にかかる費用を計算して、割に合わないの戦争はできない、という話し合いをするという。国際的な日本の特殊性も指摘された。戦後70年以上経てまだ、アメリカ軍基地がある点、日本の承諾なしに基地を出発

した飛行機が諸外国を攻撃して日本の基地に帰ってくるのが可能である点、などである。日本はいつ戦争に巻き込まれてもおかしくないという。

些細な日常が吹き飛ぶ刺激的なお話が盛りだくさんであった。知らないことを知るのは楽しい。夫と家事、育児以外にも共通の話題を持つことができ、「難しかったね」と言い合いながらも、講座の内容について話し合った時間は、ほがらかなよい時間であった。こういう時間を生活のどこどこに持てると疲れがたまらない。



【第6回】「主権なき平和国家」
講師：伊勢崎賢治

引き続き、憲法を考える連続講座(後半続き)がスタートします。今年度最後の憲法講座になりますので、今まで参加いただいた方も、そうでない方も、ぜひご参加ください。詳細は次ページをご覧ください。

〈憲法を考える連続講座⑧〉

生ける憲法とは

～『基本的人権』は守られるのか～

講師 阪口 正二郎 (一橋大学)

日本国憲法は、私たち国民を「主権者」として位置づけをしています。特に憲法の改正については国民の総意により可能であるとされています。私たちにとって憲法を改正するとはどういう意味をもつことなのか、日本国憲法第11条についてどのように考えればいいのかをお話をうかがい、考える機会とします。

〈阪口さんの著書〉

『立憲主義と民主主義』、『岩波講座憲法(5) グローバル化と憲法』(岩波書店)ほか多数

とき 3月3日(日) 昼2時～4時

※連続講座ですが、1回でも参加できます。

ところ 公民館 地下ホール

定員 50名(「第九条」のみ80名)(申込先着順)

申込先 いずれも2月8日(金)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

〈憲法を考える連続講座⑦〉

第九条

～日本国憲法第九条は維持か? 破棄か?～

製作 映画「第九条」製作委員会 2016年 78分 DVD版

講師 宮本 正樹 (映画監督、脚本家)

憲法改正の是非は、将来の自分たちに関わることであり、拙速に結論を出すことが出来ない重要な問題です。しかしこの問題を考えるには、若者を含め国民の議論はあまり高まっていないように思います。

この映画は、近未来での日本国憲法第9条について、さまざまな立場の12人の20代の若者たちが、戦争、基地問題、拉致問題など、多角的な観点から、熱い議論を交わしています。それぞれの役に自分を重ね合わせて考えたとき、果たして皆さんは、どんな結論を出すことになるのでしょうか。

映画上映後は、監督である宮本さんに、この映画を製作した思いをお話していただき、あらためて、自分の考えはどうなのか、問い直す機会としたいと思います。

〈宮本さんの作品〉

『二十年後の約束』(2003年)、『うそつき由美ちゃん』(2003年)、『共に歩く』(2014年)ほか多数。

とき 2月16日(土) 昼2時～4時半

〈憲法を考える連続講座⑨〉

憲法と家族

～『個人の尊重』は根付いたのか～

講師 辻村 みよ子 (明治大学)

憲法講座の最後は、家族と個人に関する視点から憲法を見つめなおしてみたいと思います。

核家族化、共働き世帯の増加など、家族の姿が戦後から大きく変わる一方、LGBTなどの少数者や女性など個人の尊重の原則はまだまだ根付いていないと思われます。家族の歴史や世界の憲法の家族規定も踏まえながら、日本国憲法第13条や第24条などのあり方を中心に、憲法における家族や個人の考え方を学び、自分ごととして憲法を考える機会としたいと思います。

〈辻村さんの著書〉

『憲法と家族』(日本加除出版)、『憲法改正論の焦点』(法律文化社)、『比較憲法(第3版)』(岩波書店)、『最新 憲法資料集』(編著・信山社)ほか多数

とき 3月10日(日) 昼2時～4時

講座参加者の声

今回は今年度実施した講座の中から、2つの講座の様子をお届けします。

「落語の舞台を歩く」を受講して

山木 介二

私は東京の下町出身で、落語の登場場面には自分が育った懐かしい地名が数多く登場する。最近の小説やアニメなどの聖地巡礼も盛んであるが、今回の講座は落語に出てくる舞台を歩くという内容に興味を持って参加した。

講座は二回に分かれ、初めの週で落語のバックグラウンドを勉強した。大衆芸能である落語、講談、浪曲の相互関係や、上方、江戸落

語の違い、落語の話の内容のタイプ分け、そして落語の演題に出てくる地名の頻度。地名の頻度で圧倒的に多いのは廓話に代表される吉原である。

さて、いよいよ実地踏査に出発。11月2日(金)は上々の天気で総勢10数名。事前にアンケートによって選ばれた四谷界限に向け午後2時、四谷見附を出発。先導はこの道の権威、田中敦講師。初めに訪れたのは「わかば」という「たい焼き屋」。落語には関係ないが演劇評論家の故安藤鶴夫ご推薦の店。参加者からたつての要望で訪問。ところが長蛇の列で購入まで相当の

時間がかかりそう。ここは後回し。ゆるい坂道を進むと表通りとは別世界の寺町の静かな佇まい。皆様異口同音に「いいところだねー」の声。



都会の中に歴史を発見

鉄砲坂、戒行寺坂を抜け「於岩稲荷田宮神社」へ。こじんまりとした境内には小さな社が建ち、樹木が茂り、周りの住宅街とは別世界。ここは歌舞伎や落語でおなじみの場所。ところが境内の案内書を見ると、江戸後期、歌舞伎の作者「鶴屋南北」により事実と異なる物語に作り変えられたとのこと。この神社の「於岩」はもと「お岩」という江戸初期に健気な一生を送った女性の事。お岩は信仰心の篤い女性で、その信仰のおかげで家の再興に成功する。この話が評判になり、彼女の死後も屋敷の一角となった「於岩稲荷」を人々は信仰するようになった。彼女没後200年経っても江戸では彼女の事は根強い人気があった。「南北」はこの「お岩」という名前を使っ

て歌舞伎にすれば大当たり間違いないと「お岩」の名前だけを拝借。当時江戸で評判になったどぎつい事件を組み込んで脚色した。天才的な劇作家が虚実織り交ぜて創作したのがお岩の怨霊劇だった。

さて、「於岩稲荷」を後にして次に向かったのは四谷三丁目の「消防博物館」。ここでは落語に出てくる江戸時代からの消防の歴史が一覧できる。「いろは48組」のミニチュアの「纏(まとい)」や江戸時代の消火活動のジオラマ。当時は大火災の際は破壊消防が主だった、そのための道具の数々。

次に甲州街道の四谷の「大木戸」を抜けて「円朝旧居」へ。ここは明治の東京落語会を代表した三遊亭円朝が明治21年から28年まで住んだ所。彼は怪談話や人情斬を得意とした落語家だった。旧居は深い藪や野菜畑に囲まれ、田園風景が広がっていたと言う。円朝は周囲の喧騒を避け、当時はまだ寂しいこの町を選んだ。

さてこの実地踏査もいよいよ大詰めへ。円朝旧居からすぐのところの「太宗寺」へ。ここには江戸時代に入り六本の街道入り口にそれぞれ設置された江戸六地藏の第三番がある。また閻魔像が安置されており、江戸時代から多くの庶民に信仰されてきた。

最後の訪問先は「成覚寺」。ここは岡場所としても繁栄した内藤新宿の飯盛り女たちの投げ込み寺。奉公途中に死んだ飯盛り女はここに投げ込むように葬られた。悲しい歴史を垣間見た。

続いて実地踏査一行は解散場所の「新宿末広亭」へ。ここでは希望者は寄席を楽しむことが可能。私は近くのコンビニで弁当を買って午後5時からの寄席を鑑賞。漫才あり、奇術あり、もちろん落語ありの笑いっぱいなしの4時間はあっという間に過ぎた。

追出し太鼓に送られて新宿の街に出るとそこは秋風とともに道一杯の酔客の群れ。夜風に送られ国立までの帰路についた。

「子ども・若者の育ちを支える講座」に参加して

河合 伸太郎

今回、私は2018年8月25日にNHK学園高等学校で開催された「子ども・若者の育ちを支える講座」第一期に参加しました。講師は文教大学准教授の青山鉄兵先生で、講座名にあるように子どもや若者の育ちを支える地域の大人たちの在り方や子ども・若者との関わり方について講義やワークシ

ョップ形式を用いて考察しました。講座には私のような大学生や地域で学生の支援活動を行っている方、塾や幼稚園で勤務されているような教育に携わるお仕事をしている方、対して教育とは関係のない分野でお仕事をされている方など多様な分野で活躍されている方々が参加していました。

講義は①地域での子ども・若者支援を考える視点、②子ども・若者と関わる上で大切にしたい3つのこと、という2つのセクションに分かれており、それぞれについて青山先生の解説や現在の実状をもとに考察をするという形式で講座が進行していきました。

私が①のセクションで印象に残っているのは、子ども・若者と地域の大人たちは「ナナメの関係」であるということです。子ども・若者と教員の「タテの関係」や同級生など同じコミュニティ内の「ヨコの関係」とも違う「ナナメの関係」として地域での支援を行うことにより、様々な体験機会の減少、貧困や教育格差といった現代社会の課題に直面している子ども・若者が育つ環境を整える役割を担えるのだと知りました。

続く②のセクションでは、「関わること・遊ぶこと・悩むこと」という3つの大切なことが挙げられており、これらについて参加者全員で考察していききました。私は、考察する中で子ども・若者と「関わること・遊ぶこと」には彼らの育ちを支援できる「可能性」と同時に、傷つけてしまうかもしれないという「危険性」も孕んでいるのだと考えました。そのため、彼らと関わる上で、何を大切にしなければならぬか、について自分なりに「悩むこと」が必要であると感じました。



様々な分野の人と話し合いました

今回の講座に参加して、教育の場、学校だけではなく、子どもたちの成長に関わる大人は教員だけではなく、私たちもそのような大人として子どもたちに必要とされているということをおぼろげに認識しました。

最後に、国立市公民館では私の参加した講座以外にも皆さんの学習活動を支援する様々な講座が開かれています。ぜひそれらに参加して皆さんの考えや意見を周りの人と共有してみてください。

国立市公民館・くにたち地域コラボ・NHK学園高等学校共催

地域の学習支援、次の一歩へ

—子ども・若者を支えるつながりづくり—

いま国立市では、子どもたちが放課後に楽しく学べる学習支援教室がいくつか活動しています。こうした「学び場」は、行政・地域の連携・協力によって運営され、勉強のサポートとともに「居場所」として安心して過ごせることなどが大事にされています。

こうした取り組みに子どもの参加が増え続けている中、学習者のニーズが多様なことや経済的困難を抱えた家庭や保護者へのアプローチ、不登校、さまざまな発達しょうがい課題や外国にルーツのある児童生徒の日本語支援など、いくつもの共通の課題が指摘されています。

今後も地域で子ども・若者の成長を支える豊かな「学び場」「居場所」をつくっていくために、何が求められるのか。1部では、全国的な状況や先進事例を学び、2部では次のステップへの展望を切り拓く対話の場を設け、本テーマへの議論を深めていきます。地域の学習支援における次の一歩について、一緒に考えてみませんか。

1部 基調講演 渡辺 由美子

(NPO法人キッズドア 理事長)

講演名 『無料学習会の成果と可能性』

2部 ファシリテーター 青山 鉄兵 (文教大学)

とき 2月17日(日) 昼1時半～夕4時半
ところ 公民館 地下ホール 定員 60名(申込先着順)
申込先 2月8日(金) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

三原色で描く

キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第39期」の水彩画展を行います。三原色(赤・青・黄色)と白の絵の具で誰でも絵が描ける「キミ子方式」で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

※「シルバー学習室」は市内に住む概ね60歳以上の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期間 2月19日(火)～24日(日)
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
連絡先 公民館 ☎ (572) 5141
障害者センター ☎ (573) 3344

国立市公民館・NHK学園高等学校共催

～子ども・若者の育ちを支える連続講座～

第4回 「発達しょうがいって何？」

～発達しょうがいのある子どもとの関わり方を学ぶ～

講師 高山 恵子

(NPO法人えじそんくらぶ代表、臨床心理士)

「発達しょうがい」のある人は、ニーズに合った支援があれば力を発揮できますが、無理解のまま支援がないとその違いにより、いじめを受けやすく、ストレスを蓄積する傾向があります。それを回避するためにも、「違い」を尊重する人権教育が大変重要です。

NPO法人えじそんくらぶは、AD/HDの正しい理解の普及と支援をメインの柱として活動しています。代表の高山さんは、ご自身の経験からこうおっしゃいます。

「発達しょうがいのある子どもは素敵な支援者に出会うことで急激に伸びる」

この講座では発達しょうがいの基礎知識、子どもの行動理解、子どもと親が抱える困難の理解、支援するための心構えを中心にお話いただいて、発達しょうがいのある子どもとの関わり方について学びます。

とき 2月13日(水) 夜6時～8時
ところ NHK学園高等学校 2階音楽室
国立市富士見台2-36-2

定員 80名(申込先着順)
申込先 2月8日(金) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141



〈パラスポーツ体験講座 第3弾〉

ゴールボールをやってみよう



～パラリンピック選手に挑戦！ステップアップ講座～

ゴールボールは、目隠しをして鈴入りのボールを転がすように投球し合い、ゴールを競うチームスポーツです。

今回は実際にやってみる2回目の講座。前回に引き続き、世界でも活躍されている高田選手が講師です。より実践的な練習をして、高田選手に挑戦しましょう。

初めての人でも楽しめる講座内容ですので、ぜひお気軽にご参加ください。

講師 高田 朋枝 (北京パラリンピックゴールボール代表選手、日本パラリンピアンズ協会理事)

コーディネーター 齋藤 隼人 (東京都ゴールボール連絡協議会理事)

とき 2月16日(土) 昼3時～5時(*現地集合・解散)
ところ 国立市第八小学校 体育館
定員 20名(申込先着順)
服装 長袖、長ズボン、体育館履き(必須)
申込先 2月15日(金) 夕5時までに電話で申し込みください。公民館 ☎ (572) 5141

〈青年講座〉
葛藤を学びに変える
 —インクルーシブな社会をめざす実践とは—

講師 津田 英二 (神戸大学)

現代社会においては、個人が分断され、社会的に排除された人がますます孤立する傾向が強まっています。こうした中、バラバラな個人がつながり、インクルーシブな社会をつくるために、私たちに何ができるのでしょうか。

津田さんは、かつて国立市公民館の若者による実践「コーヒーハウス」に参加し、その経験を踏まえ現在では子育てを核とした共生の拠点「のびやかスペースあーち」を運営しています。津田さんのお話を通して、生活課題や人間関係の困難といった場に持ち込まれるさまざまな葛藤を、性急に解決するのではなく、日常に留め置きながら、葛藤を学びに変えていく場のありようについて考えます。

とき 2月16日(土) 朝11時～昼2時
 ところ 公民館 1階青年室 定員 10名(申込先着順)
 申込先 2月7日(木)朝9時～ 公民館 ☎(572) 5 1 4 1
 e-mail: sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp
 対象 高校生～30歳代くらいまで
 *参加者には、お昼休憩時に「喫茶わいがや」のカレー等の軽食メニューを割引価格でご提供できます。

〈平和講座〉
紛争と内戦、難民を考える

世界ではテロや紛争などさまざまな対立が繰り返され、武器や暴力で命を失う人々が後を絶ちません。背景に各国地域の歴史や民族、宗教など複雑な要因があります。その解決には地域における対立や暴力の特質を一つひとつ丁寧に分析することが不可欠であり、遠く離れた平和な日本に暮らす私たちも知らなければならぬ現実です。

1回目は70万人規模の人々が隣国バングラデシュに避難する「ロヒンギャ難民」のお話をうかがいます。
 2回目は国外難民550万人強、国内避難民600万人以上の今世紀最悪の人道危機「シリア内戦」を取り上げます。

詳しく報道されない紛争の原因や難民の現状、課題解決方策などのお話から、私たちにできることを考えます。

回	月日	テーマ	講師
1	2月17日(日)	ロヒンギャ難民はなぜ帰還できないのか	根本 敬 (上智大学)
2	3月9日(土)	シリア内戦と難民～今世紀最悪の人道危機とは～	青山 弘之 (東京外国語大学)

とき いずれも昼2時～4時
 ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)
 申込先 2月7日(木)朝9時～
 公民館 ☎(572) 5 1 4 1

〈図書室のつどい〉
『大人も楽しめる絵本の世界』
 ～いじわるな小鳥が気づかせてくれる仲間のあたたかさ～
 (絵本製作の裏側がわかるミニ展示会も開催)

お話し 山田 和明 (絵本作家・イラストレーター)

大人も楽しめる絵本の世界とは。これまでの人生のホロ苦い気持ちを感じさせ、なにか大切なことを気づかせてくれます。今回ご紹介する『モノポの巣』は、たった1通の「手紙」が、仲間のあたたかさを教えてくれる物語。

絵本に込めた想いや制作秘話、絵本製作過程のミニ展示会などあまり知られていない絵本作りの裏側も紹介します。それ以外に、読み聞かせの時間や教鞭を執られている山田さんならではのお絵描きミニワークショップもあり、知らない人でも楽しみ、絵本のことにも詳しくなれる講座です。

〈山田さんの絵本〉
 『モノポの巣』(小鳥書房)、
 『あかいふうせん』(出版ワークス)ほか



とき 3月9日(土) 朝10時半～12時半
 ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(当日先着順)
 *申込は不要です。ご自由においでください。

シネボックス
〈CINEVOX 公民館映画会〉
『午後の遺言状』
 近代映画協会 1995年 カラー 112分 ※DVD版

監督・原作・脚本 新藤兼人 音楽 林光
 出演 杉村春子、乙羽信子、朝霧鏡子、観世榮夫、
 津川雅彦、倍賞美津子、永島敏行、松重豊ほか

メジャーの映画会社と距離を置き、徹底して自主独立のスタイルを貫きながら、100歳まで映画を作り続けた孤高の巨匠・新藤兼人。その新藤監督が、昭和の映画・演劇界を代表する二大女優・杉村春子と乙羽信子に捧げた名作。日本アカデミー賞をはじめ、キネマ旬報賞、ブルーリボン賞など各映画賞の作品賞を総なめにした。蓼科の山荘を舞台に、避暑にやってきた老女優とその周囲の人々が織り成す人生模様から「古い」や「死」といったテーマが浮かび上がる。乙羽信子は撮影時、すでにガンで余命宣告を受けていたが、公私共に支え続けた新藤監督の思いを汲んで出演。抑制の効いた中にも深い味わいを感じさせる、最後の名演技を見せた。



とき 2月24日(日) 昼2時～(開場1時)
 ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
 *ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈一橋大学連携講座〉
「広島」をめぐる知のプリズム
 ～語り・空間・映像～

人類史上はじめて核兵器の災禍に遭った広島は、反戦平和の言論や災害復興の法制度、文学や映画の題材など、様々な分野で象徴的な意味を担ってきました。こうして広島に張り巡らされた知のネットワークを多様な学問が読み解いてきましたが、研究方法や視座の違いによって「広島」や「原爆」の見え方は決して同じになるとは限りません。

三人の講師が異なる視点から捉えた「広島」。被爆者のイメージや都市空間の重層性、被爆体験の継承。その乱反射のなかで改めて「平和」や「被爆」に関する規範的な価値観を見つめ直します。

◆第1回：3月2日(土)

「映画に映る白血病の被爆者～吉永小百合と広島風景」

講師 片岡 佑介 (一橋大学博士課程・映画研究)

◆第2回：3月16日(土)

「原爆を記憶する都市～広島のかなかのヒロシマ」

講師 松尾 浩一郎 (帝京大学教授・都市社会学)
 片岡 佑介 (一橋大学博士課程・映画研究)

◆第3回：3月30日(土)

「ヒロシマと『被爆体験の継承』～その歴史と力学」

講師 根本 雅也 (立命館大学プロジェクト研究員・社会学)
 片岡 佑介 (一橋大学博士課程・映画研究)

時間 昼2時～4時(全3回)

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 2月14日(木)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



〈院生講座〉
この女(ひと)を見よ
 —サラ・コフマン自伝「オールドネル通り、ラバ通り」を読む

講師 ファヨル入江 容子 (一橋大学博士研究員)

1942年、ナチス占領下パリ、18区オールドネル通り。

哲学者サラ・コフマンは7歳でした。父はアウシュヴィッツ強制収容所へ連行され、自身も、母とともに、同区ラバ通りのフランス人女性のもとに身を隠すことに。

父の不在。実母と養母—異なる伝統を持つ二人の母—との葛藤。自伝『オールドネル通り、ラバ通り』には、ユダヤ人迫害を生き延びた少女が、自らの人生を選択し、哲学者となるまでが描かれています。傾倒していたニーチェ生誕150周年の1994年に自ら命を絶つまで、多くの書物を残したコフマン。この自伝が事実上、最後の著作となりました。

本講座では、草稿を参照しながら自伝を読み解き、コフマンの幼年期とやがて育まれた「私」自身の生を肯定する思想との間に秘められた関係を明らかにします。前半では、彼女の父との、後半では、二人の母との記憶を辿ります。

とき 2月24日、3月10日(全2回)
 いずれも日曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 25名(申込先着順)

申込先 2月8日(金)朝9時～
 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。今回はスペシャルに「ポストク」編。博士学位を取得して間もないパリパリの若手学者が、最新の研究をご紹介します。



経営史から見た明治維新
 ～近代日本の企業者たちがみせた創造的対応とは～



本講座では経営的に歴史を紐解く、経営史からみた明治維新の面白さを学びます。海外列強の動きに、砲術家として近代武装の初動をつくった高島秋帆など、今でいう企業家を含む、経営的に見た近代化への動きをつくったキーパーソン(=イノベーター)がみせた対応には、創造性があります。そんな創造的な対応に注目した明治維新についてご紹介します。

イノベーションを中心とした企業の戦略や組織の歴史的研究をされ、「イノベーターたちの日本史—近代日本の創造的対応—」(東洋経済新報社)の著者でもある米倉さんにお話をいただきます。

これまでとは違う明治維新の歴史的な面白さに気づいたり、これからの日本を考えるヒントが見つかるかもしれません。ぜひお気軽にご参加ください。

講師 米倉 誠一郎 (せいいちろう)

(法政大学大学院教授、一橋大学イノベーション研究センター特任教授、一橋大学名誉教授、プレトリア大学日本研究センター顧問)



〈米倉さんの著書〉

『オープン・イノベーションのマネジメント』(有斐閣)、
 『創発的破壊 未来をつくるイノベーション』(ミシマ社)、
 『2枚目の名刺』(講談社+α新書)、
 『経営革命の構造』(岩波新書)など多数

とき 3月15日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(申込先着順)

申込先 2月12日(火)朝9時～
 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

〈女性の生きかたを考える講座・公開講座〉

夫婦をもっと楽しもう！

—お互いを大切に作るアサーションを知ろう—

講師 野末 武義

(明治学院大学・IPI 統合的心理療法研究所所長)

日々の子育てに追われていると、夫婦の絆づくりは後回しになってしまいます。人生を共に生き抜くパートナーとして結婚したのに、このままでは将来の夫婦関係は大丈夫だろうかと不安になることもあります。

そこでまずは日常生活から離れ、自分も相手も大切に作るコミュニケーションスキルであるアサーションを学び、より良い二人の関係について考えてみませんか。

『夫婦・カップルのためのアサーション』の著者であり、家族心理学とカップル・セラピーを専門とする野末さんをお迎えし、主に子育て中の夫婦のコミュニケーションと自己実現についてお話いただきます。

※「女性の生きかたを考える講座—女性のライフデザイン学—」(2018年5月～9月実施)の参加者の学びの中から出てきたテーマを取り上げました。ぜひ一緒に考えましょう。

※お子様連れ、ご夫婦、男性の参加も大歓迎！会場内後方に、キッズスペースを設けます。

とき 3月1日(金)朝10時～12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 35名(申込先着順)

申込先 2月14日(木)朝9時～
公民館☎(572)5141



〈地域史講座・フィールドワーク〉

くにたちの崖線を歩く—第3部—

—まちを歩き、地域を知る—

くにたちを形成する三つの崖線(崖の連なり)付近を歩きながら、歴史や自然を学ぶ講座の第3部です。第1部(国分寺崖線)、第2部(立川崖線)に引き続き、今回は、谷保駅から立川市の柴崎体育館へ向かいながら青柳崖線付近、約5キロの道のりを歩きます。第2回では、今年度の崖線シリーズのまとめとして、崖線の風土と文化について椿さんにお話いただきます。

初めての方でも楽しめる内容です。春の訪れを感じながら、崖の魅力に迫りましょう。

第1回 フィールドワーク

とき 3月10日(日)朝9時～昼12時ごろ

集合・解散 谷保駅南口集合

モノレール柴崎体育館駅解散予定

持ち物等 歩きやすい服装、飲み物、筆記用具

※少雨決行。ただし荒天の際は中止。

※多少の高低差のあるコースを歩きますので、ご留意ください。



第2回 「崖線の魅力・再発見：崖線の風土と文化」(座学)

講師 椿 真智子(東京学芸大学)

とき 3月24日(日)朝10時～昼12時

ところ 公民館 3階講座室

定員 15名(原則2回続けて参加できる方、申込先着順)

申込先 2月14日(木)朝9時～
公民館☎(572)5141

協力 国立まなびあるきの会

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第4回

日時 3月18日(月)〈雨天中止〉

集合 国立駅北口 朝9時

実施方面 藤野・相模湖方面(距離:約10キロ高低差あり)

対象 市内在住、在勤者※行程はウォーキング初心者向けです。

チラシ 2月22日(金)から市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザ、国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザで配布します。

申込方法 チラシの内容(日程、コース、申込方法等)を確認のうえ、2月25日(月)から3月8日(金)の期間に下記までお申し込みください。

申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課 社会体育担当
☎(576)2107(直通)

公民館運営審議会報告

1月8日(火)第32期第3回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名が出席。傍聴3名。

前回議事録確認

前回は引き続き大串委員を講師に、第五福竜丸事件を発端とした市民の核兵器廃絶運動とその活動拠点として公民館が果たした役割についての講義があった。

協議事項

公民館の職員体制の充実について議論し、委員長が「国立市公民館の職員体制の充実を求める要望書」として取りまとめ月に教育長に提出することとなった。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会

巻頭の寄稿について、市民文化祭と公民館の関係やその役割をわかりやすく併記してあるとよかったなどの意見があった。

○社会教育委員の会

国立市生涯学習振興・推進計画「素案」について意見交換。2月に正式な意見書として庁内検討委員会に提出予定。

○東京都公民館連絡協議会

東京都公民館研究大会開催に向けて、進め方や役割分担などを打ち合わせた。

次回開催2月12日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(限井)



今月の公民館 (2月、3月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 13日(水)夜 国立市公民館・NHK学園高等学校共催
「子ども・若者の育ちを支える連続講座」
- 16日(土)朝 青年講座「葛藤を学びに変える」
- 16日(土)昼～ 憲法を考える連続講座⑦「第九条」
- 16日(土)昼 パラスポーツ体験講座 第3弾
「ゴールボールをやってみよう」
- 17日(日)昼 国立市公民館・くにたち地域コラボ・NHK学園高等学校共催
「地域の学習支援、次の一歩へ」
- 17日(日)昼～ 平和講座「紛争と内戦、難民を考える」
- 19日(火)朝～ *キミ子方式水彩画展
- 24日(日)昼 * CINEVOX 公民館映画会
『午後の遺言状』
- 24日(日)昼～ 院生講座「この女(ひと)を見よ」
- 3月1日(金)朝 女性の生き方考える講座・公開講座
「夫婦をもっと楽しもう!」
- 2日(土)昼～ 一橋大学連携講座
「広島」をめぐる知のプリズム
- 9日(土)朝 *図書室のつどい
「大人も楽しめる絵本の世界」
- 10日(日)朝～ 地域史講座・フィールドワーク
「くにたちの崖線を歩く—第3部—」
- 15日(金)夜 「経営史から見た明治維新」

ひろば

(7ページにもあります)



ガールスカウト東京都第145団

年長〜小学生の少女を募集しています。さまざまな体験を積み重ね、自ら考え行動できる人となることを目指します。見学・体験随時募集中です。

日時 日曜日(月2回程度)
場所 公民館、他
連絡先 小野(574) 23338
girlscouts.tokyo.145@gmail.com

数学を楽しむ教室(2月期)

第一部は一般の方、第二部は中高生が対象です。手も動かし、数学に関心がなかった方にもこんなに面白く身近なのだと感じていただきます。気軽に挑戦してください。

日時 2月9日(土)23日(土)昼1時
場所 公民館 集会室・小集会室
連絡先 三浦070(5084) 8571

光遊会 写真展

東京近郊の四季折々の、風景等を撮っているサークルです。今年も、写真展を行います。一年間、会員の撮影した写真を展示しています。お越しください。

日時 2月12日〜17日
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 安藤080(5546) 0989

公民館図書室

休室のお知らせ

3月4日(月)から7日(木)までの点検・整理のため休室します。

*新聞は、朝9時〜夕方5時の間、2階事務室前で閲覧できます。(3/5〜3/7)

水泳会員募集 かめクラブ

健康な身体づくり、生活習慣に水泳を取り入れてみませんか。泳力別にコーチの指導を受け泳ぎます。初心者〜上級者、男女問わずお待ちしています。体験水泳可。

日時 毎週金曜日 朝10時〜12時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 酒井042(384) 1846

〈サークル訪問329〉 しらはぎきもの会

6年ほど前のこと、着物を着るのが好きな人たちが声を掛け合い、生まれたのがこの会。

襦を開けると、和室のそれぞれの隅に姿見を立てかけ、着る方と指導をする方が何組もペアを組んで着付けをおこなっていた。

普段着からよそいきのお召まで、着物も帯も色とりどりの中、上級者はアドバイスを受けながら自分で着付けていく。代表の西さんを含め先生役の3名は、優しい中にもてきばき、時にピシッと的確な指導を入れる。「この時手はどうなっているの? 結ぶ時ここは縦にね」前で結んで後ろに回すときは、ここを持つと綺麗に回るのよ」ここが大事というところの「こつ」を惜しみなく伝えあう雰囲気がとても良い。

会員のみなさんに参加の動機を尋ねると、「着物が好きだった母の思いを大切にしたい」、「娘が美容師なのでその手伝いに」、「袖にあこがれつい買ってしまったから」、「生け花をやっていると着る機会も多い」、「着物を着るからには綺麗に着たいので」等等。

着付けの資格を取るために勉強される方もいるが、この会はあく

まで着物を着るのを楽しむ会。公民館を通じて国際交流にも協力、着物を着せる際には、一人ひとりの帯の結び方も変えたり工夫が喜ばれたとか。

八王子からおいでの先生は、素敵な着物と帯、それに着こなしで目立っている。先生曰く、資格は土台でありその上にアイデアで無限の着方、個性が生まれるそうだから、着る人に合わせ、用途に合わせて、帯の締め方も本当にさまざま、バリエーションの豊かさに圧倒され、着物の奥深さをしみじみと感じる取材となった。会員募集中。

日時 金曜日 午後1時〜5時
場所 公民館 和室
連絡先 西042(575) 6308

〈文・写真 佐藤節子〉



「こつ」は惜しみなく

